

地域住民の学校への関与が 学校の荒れの収束に及ぼす影響の検討

研究代表者
香川大学教育学部
大久保智生

問題と目的

近年、学校の荒れや学級崩壊などの問題行動の継続化が大きな社会問題となってきた。加藤・大久保（2004, 2009）が指摘しているように、学校が荒れた際には教師が指導のあり方を見直すことが必要である（大久保, 2009）。しかし、教師は日々の様々な問題に対処し続けていく中で疲弊していることから、今後、問題行動の継続化の対策として地域の教育力を活用することも視野に入れる必要がある。本研究では、地域の教育力という意味で学校支援地域本部事業に焦点を当て、この事業によって荒れていた中学校に地域住民が関与することで学校と地域にどのような変化が起きたのかについて多面的な意識調査を通して検討していく。

学校支援地域本部事業とは、平成 20 年より始まった文部科学省の委託事業であり、学校が必要とする活動について地域住民をボランティアとして派遣する事業で、そのためにコーディネーターを中心とする組織を整備するものである。いわば地域に学校の応援団を作る試みであり、従来の学校支援ボランティア活動を発展させた組織的なもので、より効果的に学校支援を行うために設置されるものである。平成 20 年度に、867 市町村で 2176 の地域本部が立ち上げられており、この事業を契機として学校・地域間関係の再編に取り組むことで両者のエンパワーメントを図りたいという期待

がみてとれる（時岡・大久保・平田・福圓・江村, 2011）。

最近では、学校支援地域本部事業についての研究（例えば、本迫, 2009; 中川・山崎・深尾, 2010; 荻野, 2010; 大久保・時岡・平田・福圓・江村, 2011; 時岡・大久保・平田・福圓・江村, 2011）が行われてきており、この事業によって学校と地域が活性化されることなどが明らかとなっている。しかし、荒れた学校を対象とし、学校の荒れと学校支援地域本部事業との関連を検討した研究は、大久保・時岡・平田・福圓・江村（2011）の研究以外は見当たらないのが現状である。

学校が荒れた場合、教師には非常に負担がかかることから地域の教育力に活路を見出すという対策も今後求められるようになるといえる。学校の荒れの対策として、加藤・大久保（2009）は学校を地域住民の協力を得るために積極的に公開していくことを挙げているが、地域に開かれた学校づくりをどのようにしていくのかについては言及していない。前述の大久保・時岡・平田・福圓・江村（2011）の研究では、地域に開かれた学校づくりの事業として学校支援地域本部事業を取り上げ、学校の荒れが収束した中学校 1 校を対象として地域住民の関与と学校の荒れについて検討を行った結果、地域住民の関与によって学校と地域が変化したことが示唆された。しかし、大久保・時岡・平田・福圓・江村（2011）の研究では、学校

支援地域本部事業を始めて荒れが収束していった中学校1校のみを対象としており、現在荒れている学校を対象とした研究は行っていない。したがって、本研究では、現在荒れている学校で学校支援地域本部事業を開始することで学校と地域にどのような変化が起きるかについて、学校支援地域本部事業が定着してきた荒れが収束しつつある学校との比較を通して明らかにする。

以上を踏まえ、本研究では、地域に開かれた学校づくりの事業として学校支援地域本部事業を取り上げ、学校支援地域本部事業による地域住民の学校への関与が学校の荒れの収束に及ぼす影響について検討することを目的とする。その際、生徒・地域ボランティア・教師・PTAの意識調査を通して、学校と地域にどのような変化が起きたのか検討を行う。また、本研究では学校が荒れたことで学校支援地域本部事業を行い始めた中学校と学校支援地域本部事業を行ったことで学校の荒れが収束しつつある中学校を調査対象として検討を行う。

具体的には、まず、調査対象となった中学校2校の学校の荒れおよび学級の荒れ、問題行動について検討を行い、荒れや問題行動などの学校の状態に注目する。次に、ボランティア参加による地域住民の意識がどのように変化したのかについて検討を行う。そして、荒れている学校と荒れが収束しつつある学校において学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知について比較する。最後に、中学校ごとに学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知について検討を行うことで、今後、どのように進めていく必要があるのかを考察する。

方法

調査対象

岡山県内のA中学校とB中学校が調査に参加した。A中学校は学校が荒れたことで学校支援地域本部事業を行い始めた中学校であり、B中学校は

学校支援地域本部事業を行ったことで学校の荒れが収束しつつある中学校である。両校の生徒507名(A中学校109名、B中学校398名)、ボランティア84名(A中学校10名、B中学校74名)、教師39名(A中学校15名、B中学校24名)、PTA407名(A中学校79名、B中学校328名)に対して質問紙調査を実施した。なお、A中学校は学校支援地域本部事業を開始して1年目、B中学校は学校支援地域本部事業を開始して4年目である。

生徒用質問紙の構成

①学校の荒れ：深谷・三枝(2000)を参考に加藤・大久保(2005)が作成した尺度12項目に対し、「あなたの学校では、以下のようなことがどれくらい起きていますか」という教示のもと、「ぜんぜんない」(1点)から「とてもある」(4点)までの4件法で回答してもらった。

②学級の荒れ：深谷・三枝(2000)を参考に作成した尺度10項目に対し、「あなたのクラスでは授業中、以下のようなことがどれくらいありますか」という教示のもと、「ぜんぜんない」(1点)から「とてもある」(4点)までの4件法で回答してもらった。

③問題行動の経験：青少年人間関係調査研究会(2002)を参考に加藤・大久保(2002)の研究で作成された尺度15項目に対し、「ここ1年のあいだに、あなたは以下のことをしたことがありますか」という教示のもと、「したことがない」(0点)と「したことがある」(1点)の2件法で回答してもらった。

④学校の取り組みへの認知：大久保・時岡・平田・福圓・江村(2011)の研究で作成された生徒指導、学習指導、進路指導、部活動指導、危機管理、地域との連携の6つの側面からなる学校の取り組みへの認知尺度42項目に対し、「あなたの地域の学校は以下の取り組みを行っていますか」という教示のもと、「あてはまらない」(1点)から

「あてはまる」(4点)の4件法で答えてもらった。

地域ボランティア用質問紙の構成

①ボランティア参加による変化:大久保・時岡・平田・福圓・江村(2011)の研究で作成された「地域と中学生の変化」「企画の推進」「参加のポジティブな効果」3因子からなる尺度10項目に対し、「今回の学校支援地域本部事業に参加してどのように思われましたか」という教示のもと「まったく思わない」(1点)から「たいへん思う」(4点)までの4件法で答えてもらった。

②学校への期待:地域の人たちが何を学校に期待しているかについて尋ねた。生徒指導、学習指導、進路指導、部活動指導、危機管理、地域との連携の6つの側面に対して、「あなたの地域の学校に何を期待していますか」という教示のもと、「やらなくてよい」(1点)から「やってほしい」(4点)の4件法で答えてもらった。

③学校への評価:学校に対してどのように評価しているのかについて尋ねた。「あなたの地域の学校に対してどのように思っていますか」という教示のもと、「あてはまらない」(1点)から「あてはまる」(4点)の4件法で答えてもらった。

④学校の取り組みへの認知:生徒用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

教師用質問紙の構成

①学校への期待:地域ボランティア用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

②学校への評価:地域ボランティア用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

③学校の取り組みへの認知:生徒用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

PTA用質問紙の構成

①学校への期待:地域ボランティア用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

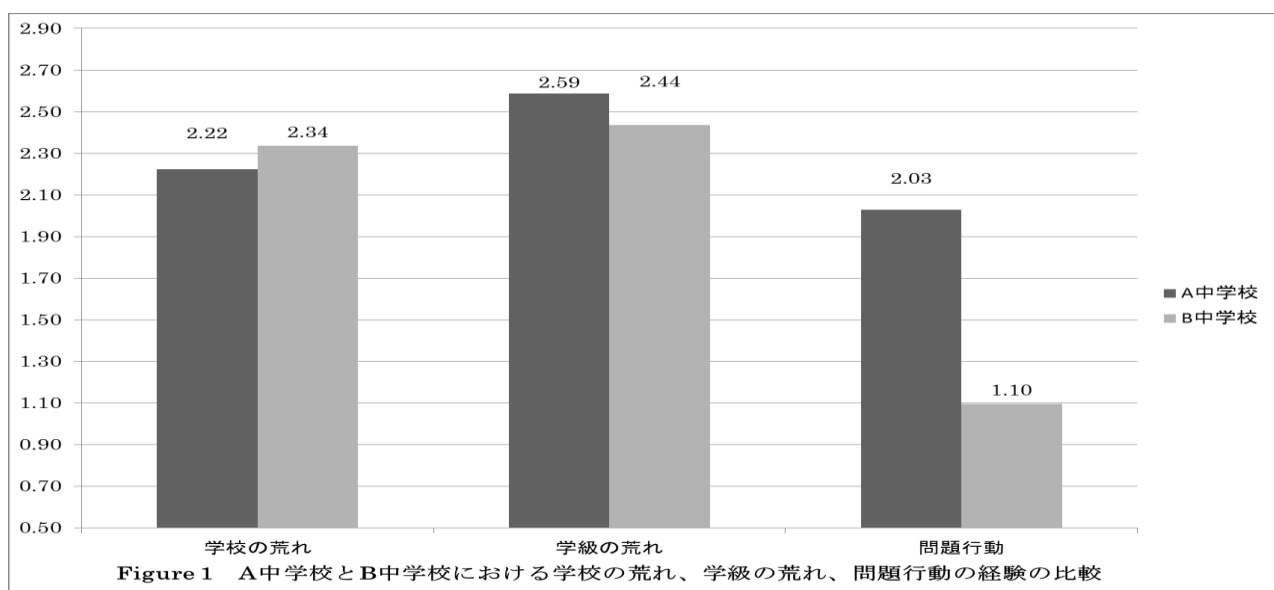
②学校への評価:地域ボランティア用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

③学校の取り組みへの認知:生徒用質問紙で用いた尺度と同様のものを使用した。

結果と考察

A中学校とB中学校の学校の荒れおよび学級の荒れ、問題行動の検討

A中学校とB中学校の学校の荒れおよび学級の荒れ、問題行動の平均点を算出した。その結果をFigure 1に示す。A中学校の学校の荒れ得点の平均は2.22であり、学級の荒れ得点は2.59、問題行動の経験得点の平均は2.03であった。B中学校の学校の荒れ得点の平均は2.34であり、学級の荒れ得点は2.44、問題行動の経験得点の平均は1.10で



あった。

以上の結果から、学校が荒れたことで学校支援地域本部事業を行い始めた A 中学校では、学級の荒れの得点も高く、また、加藤・大久保(2005, 2006)の研究では問題行動の経験で値が 2 以上は問題生徒とされることから依然として荒れている学校であることを示す結果となった。学校支援地域本部事業を行ったことで学校の荒れが収束しつつある B 中学校では、学校の荒れの得点は高いものの、特に生徒の問題行動の経験が低くなっており、荒れが収束しつつある学校であることを示す結果となった。

ボランティア参加による地域住民の変化の検討

A 中学校と B 中学校のボランティア参加による変化について学校ごとに検討するため、ボランティア参加による変化の得点を従属変数、学校を独立変数とした t 検定を行った (Table 1)。その結果、A 中学校が B 中学校よりも企画の推進の得点が有意に高かった ($t=2.06, df=61, p<.05$)。

以上の結果から、両校とも「地域と中学生の変

化」「企画の推進」「参加のポジティブな効果」の値が高いことから、学校支援地域本部事業により地域住民に肯定的な変化を起こしたと考えられる。また、A 中学校では学校支援地域本部事業を開始して間もないため、企画の推進が高くなったと考えられる。一方、B 中学校では学校支援地域本部事業が根付いてきたため、企画の推進が低くなったと考えられる。

A 中学校と B 中学校の学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の比較

A 中学校と B 中学校の学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知について比較するため、学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の得点を従属変数、学校を独立変数とした t 検定を行った。

学校への期待についての結果を Table 2 に示す。学校への期待において有意差が認められなかった。したがって、学校への期待において学校間に違いがみられないことが明らかとなった。他の学校との比較を通して、学校に対して様々な期待するわ

Table 1 A 中学校と B 中学校における地域住民のボランティア参加による変化の平均値と t 検定結果

	A 中学校	B 中学校	t 値
地域と中学生の変化	10.67 (.58)	10.53 (2.18)	.11
企画の推進	11.57 (1.13)	10.48 (1.33)	2.06 *
参加のポジティブな効果	8.63 (.74)	8.35 (.90)	.82
カッコ内は標準偏差			* $p<.05$

Table 2 A 中学校と B 中学校の学校への期待の平均値と t 検定結果

	A 中学校	B 中学校	t 値
生徒指導への期待	3.73 (.47)	3.68 (.51)	1.02
学習指導への期待	3.81 (.40)	3.79 (.43)	.41
進路指導への期待	3.78 (.42)	3.74 (.46)	.72
部活動への期待	3.51 (.60)	3.60 (.55)	1.45
危機管理への期待	3.56 (.56)	3.64 (.53)	1.35
地域との連携への期待	3.37 (.61)	3.42 (.56)	.83
カッコ内は標準偏差			

Table 3 A中学校とB中学校の学校への評価の平均値とt検定結果

	A中学校	B中学校	t値
学校が地域の中心になっている	2.49 (.72)	2.52 (.69)	.36
学校は行きやすい場所である	2.50 (.73)	2.53 (.76)	.36
学校には良い教師が多い	2.90 (.69)	2.84 (.69)	.78
学校には良い生徒が多い	2.68 (.71)	2.74 (.65)	.88
学校の取り組みに満足している	2.65 (.70)	2.64 (.71)	.10

カッコ内は標準偏差

けではないことから妥当な結果といえる。

学校への評価についての結果を Table 3 に示す。学校への評価においても有意差が認められなかった。したがって、学校への評価において学校間に違いがみられないことが明らかとなった。ここでも他の学校との比較を通して、学校に対して評価するわけではないことから妥当な結果といえる。

学校の取り組みの認知についての結果を Table 4 に示す。生徒指導の「人権教育を熱心に行っている」(t=3.45, df=941, p<.01) では、B 中学校が A 中学校よりも有意に得点が高かった。

学習指導の「特別支援教育を重視している」(t=3.16, df=937, p<.01)、「読書指導を熱心に行っている」(t=4.03, df=929, p<.001)、「地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている」(t=4.62, df=916, p<.001) では、B 中学校が A 中学校よりも有意に得点が高かった。

部活動指導の「部活動が盛んに行われている」(t=9.01, df=955, p<.001)、「部活動で生徒が活躍している」(t=10.99, df=949, p<.001)、「生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている」(t=3.84, df=945, p<.001)、「部活動に対して顧問が熱心に指導している」(t=7.99, df=940, p<.001)、「部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている」(t=2.27, df=925, p<.05)、「ボランティアを活用して部活動支援を行っている」(t=3.51, df=912, p<.001) では、B 中学校が A 中学校よりも有意に得点が高かった。

危機管理の「生徒の安全面に気を配っている」(t=2.95, df=953, p<.01)、「緊急時の訓練や対策を

熱心に行っている」(t=6.64, df=942, p<.001)、「警察や地域と連携して危機管理に努めている」(t=5.11, df=944, p<.001)、「壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている」(t=3.51, df=925, p<.001)、「校内の安全管理に努めている」(t=3.35, df=926, p<.01)、「緊急時の対応についての体制が整っている」(t=4.45, df=916, p<.001) では、B 中学校が A 中学校よりも有意に得点が高かった。

地域との連携の「教師が地域行事に積極的に参加している」(t=2.47, df=937, p<.05)、「地域文化の継承を手助けしている」(t=5.27, df=917, p<.001)、「施設を地域に積極的に開放している」(t=2.11, df=923, p<.05) では、B 中学校が A 中学校よりも有意に得点が高かった。地域との連携の「地域の人材を積極的に活用している」(t=1.99, df=947, p<.05) でのみ、A 中学校が B 中学校よりも有意に得点が高かった。

以上の結果から、学校の取り組みの認知は、概して、B 中学校の方が高かった。このことは、学校支援地域本部事業を通して、学校の取り組みが見えるようになってきたことに起因していると考えられる。

A 中学校における学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の検討

A 中学校における学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の違いについて検討するため、学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知を従属変数とした一要因の分散分析を行った。

Table 4 A中学校とB中学校の学校の取り組みへの認知の平均値とt検定結果

項目	得点		t値
	A中学校	B中学校	
(生徒指導)			
生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している	2.65 (.78)	2.76 (.75)	1.87
教職員の中で共通理解をもって生徒指導を行っている	2.74 (.78)	2.74 (.72)	.11
生徒の起こす問題に対して見て見ぬふりをしない指導を行っている	2.73 (.93)	2.79 (.84)	.92
生徒の起こす問題に対してすばやく対応している	2.87 (.87)	2.95 (.75)	1.28
人権教育を熱心に行っている	2.81 (.77)	3.01 (.73)	3.45 **
教師はどの生徒にも公平に対応している	2.55 (.96)	2.57 (.90)	.35
スクールカウンセラーを積極的に活用している	2.62 (.88)	2.56 (.86)	.97
(学習指導)			
生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている	2.53 (.74)	2.60 (.69)	1.21
特別支援教育を重視している	2.60 (.87)	2.79 (.74)	3.16 **
教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている	2.92 (.78)	2.85 (.70)	1.19
時間外でも学習指導を熱心に行っている	2.74 (.89)	2.74 (.84)	.03
学習支援ボランティアを積極的に活用している	3.06 (.81)	3.06 (.76)	.03
読書指導を熱心に行っている	2.66 (.85)	2.92 (.81)	4.03 ***
地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている	2.35 (.73)	2.63 (.75)	4.62 ***
(進路指導)			
生徒が定期的に進路について考える機会を設けている	2.84 (.84)	2.91 (.74)	1.26
生徒の高校合格率を高めるような指導をしている	2.81 (.85)	2.78 (.72)	.58
生徒が上位の高校に合格することを目標とした指導をしている	2.45 (.79)	2.48 (.71)	.44
進路相談を熱心に行っている	2.80 (.84)	2.75 (.75)	.74
生徒の適正に合った進路指導をしている	2.77 (.78)	2.83 (.68)	1.04
生徒の卒業後も考えた進路指導をしている	2.63 (.80)	2.67 (.74)	.60
進路に関する相談を頻繁に行っている	2.39 (.80)	2.50 (.76)	1.83
(部活動指導)			
部活動が盛んに行われている	2.69 (.92)	3.25 (.74)	9.01 ***
部活動で生徒が活躍している	2.59 (.85)	3.23 (.69)	10.99 ***
生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている	2.77 (.77)	2.99 (.70)	3.84 ***
部活動に対して顧問が熱心に指導している	2.51 (.89)	3.04 (.82)	7.99 ***
部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている	2.76 (.79)	2.89 (.71)	2.27 *
部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている	2.89 (.85)	2.97 (.82)	1.21
ボランティアを活用して部活動支援を行っている	2.28 (.85)	2.52 (.85)	3.51 ***
(危機管理)			
生徒の安全面に気を配っている	2.96 (.81)	3.12 (.66)	2.95 **
緊急時の訓練や対策を熱心に行っている	2.58 (.74)	2.96 (.71)	6.64 ***
生徒の個人情報の取り扱いに配慮している	3.19 (.78)	3.14 (.67)	.85
警察や地域と連携して危機管理に努めている	2.66 (.76)	2.94 (.69)	5.11 ***
壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている	2.75 (.79)	2.95 (.72)	3.51 ***
校内の安全管理に努めている	2.87 (.72)	3.05 (.66)	3.35 **
緊急時の対応についての体制が整っている	2.60 (.78)	2.85 (.68)	4.45 ***
(地域との連携)			
学校は保護者とのつながりを重視している	2.80 (.78)	2.76 (.72)	.78
学校の情報を地域に積極的に公開している	2.90 (.88)	2.84 (.78)	.97
地域の人材を積極的に活用している	3.15 (.76)	3.03 (.72)	1.99 *
教師が地域行事に積極的に参加している	2.37 (.81)	2.52 (.77)	2.47 *
地域文化の継承を手助けしている	2.45 (.75)	2.75 (.71)	5.27 ***
施設を地域に積極的に開放している	2.61 (.78)	2.73 (.72)	2.11 *
生徒が地域行事に積極的に参加している	2.68 (.81)	2.78 (.73)	1.75

カッコ内は標準偏差

*p<.05,**p<.01,***p<.001

学校への期待についての結果を Table 5 に示す。「部活動」(F(2, 96)=6.53, p<.01)、「危機管理」(F(2, 94)=9.59, p<.001)、「地域連携」(F(2, 97)=6.33, p<.01) において 3 群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「部活動」では、PTA が教師よりも有意に得点が高かった。「危機管理」と「地域連携」では、地域ボランティアと PTA が教師よりも有意に得点が高かった。この結果から、教師の学校への期待が相対的に低いことが明らかとなった。

学校への評価についての結果を Table 6 に示す。「学校には良い教師が多い」(F(2, 96)=7.42, p<.01)、「学校には良い生徒が多い」(F(2, 96)=6.14, p<.01) において 3 群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「学校には良い教師が多い」と「学校には良い生徒が多い」では、教師が PTA よりも有意に得点が高かった。この結果から、教師のほうが学校に対して楽観的な評価を行っているといえる。

学校の取り組みの認知についての結果を Table 7 に示す。生徒指導の「生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している」(F(3, 197)=7.63, p<.001)、「教職員の中で共通理解をもって生

徒指導を行っている」(F(3, 198)=4.10, p<.01)、「生徒の起こす問題に対して見て見ぬふりをしない指導を行っている」(F(3, 200)=3.45, p<.05)、「生徒の起こす問題に対してすばやく対応している」(F(3, 200)=5.46, p<.01)、「教師はどの生徒にも公平に対応している」(F(3, 197)=3.67, p<.05)、「スクールカウンセラーを積極的に活用している」(F(3, 198)=7.41, p<.001) において 4 群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している」、「教職員の中で共通理解をもって生徒指導を行っている」「生徒の起こす問題に対してすばやく対応している」では、教師が生徒と PTA よりも有意に得点が高かった。「生徒の起こす問題に対して見て見ぬふりをしない指導を行っている」、「教師はどの生徒にも公平に対応している」では、教師が生徒よりも有意に得点が高かった。「スクールカウンセラーを積極的に活用している」では、教師と PTA が生徒よりも有意に得点が高かった。

学習指導の「生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている」(F(3, 198)=3.59, p<.05)、「特別支援教育を重視している」(F(3, 200)=5.52,

Table 5 A中学校における地域ボランティア、教師、PTAの学校への期待の平均値と分散分析結果

	地域ボランティア	教師	PTA	F値
生徒指導への期待	3.71 (.49)	3.47 (.52)	3.78 (.44)	3.06
学習指導への期待	3.90 (.32)	3.60 (.51)	3.84 (.37)	2.61
進路指導への期待	3.86 (.38)	3.60 (.51)	3.81 (.40)	1.67
部活動への期待	3.57 (.54)	3.00 (.68)	3.59 (.55)	6.53 **
危機管理への期待	3.67 (.52)	3.00 (.68)	3.65 (.48)	9.59 ***
地域との連携への期待	3.78 (.44)	2.93 (.73)	3.40 (.57)	6.33 **

カッコ内は標準偏差 **p<.01, ***p<.001

Table 6 A中学校における地域ボランティア、教師、PTAの学校への評価の平均値と分散分析結果

	地域ボランティア	教師	PTA	F値
学校が地域の中心になっている	2.83 (.98)	2.69 (.75)	2.43 (.69)	1.48
学校は行きやすい場所である	2.57 (.79)	2.79 (.58)	2.44 (.75)	1.35
学校には良い教師が多い	3.40 (.55)	3.40 (.74)	2.77 (.64)	7.42 **
学校には良い生徒が多い	3.20 (.45)	3.13 (.64)	2.56 (.69)	6.14 **
学校の取り組みに満足している	2.75 (.50)	2.86 (.66)	2.60 (.71)	.84

カッコ内は標準偏差 **p<.01

Table 7 A中学校における生徒、地域ボランティア、教師、PTAの学校の取り組みへの認知の平均値と分散分析結果

項目	得点				F値
	生徒	地域 ボランティア	教師	PTA	
(生徒指導)					
生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している	2.55 (.80)	3.33 (.52)	3.40 (.51)	2.58 (.71)	7.63 ***
教職員の中で共通理解をもって生徒指導を行っている	2.67 (.83)	3.20 (.45)	3.33 (.82)	2.68 (.66)	4.10 **
生徒の起こす問題に対して見て見ぬふりをしない指導を行っている	2.65 (1.07)	3.40 (.55)	3.33 (.82)	2.67 (.71)	3.45 *
生徒の起こす問題に対してすばやく対応している	2.76 (.99)	3.50 (.55)	3.60 (.51)	2.83 (.69)	5.46 **
人権教育を熱心に行っている	2.85 (.90)	2.67 (.58)	2.87 (.74)	2.74 (.57)	.33
教師はどの生徒にも公平に対応している	2.43 (1.03)	3.25 (.50)	3.20 (1.01)	2.55 (.82)	3.67 *
スクールカウンセラーを積極的に活用している	2.39 (.97)	2.83 (.41)	3.36 (.75)	2.79 (.68)	7.41 ***
(学習指導)					
生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている	2.47 (.83)	3.00 (.82)	3.07 (.26)	2.50 (.62)	3.59 *
特別支援教育を重視している	2.49 (.92)	3.43 (.54)	3.20 (.56)	2.56 (.79)	5.52 **
教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている	2.98 (.82)	3.67 (.52)	3.13 (.74)	2.75 (.71)	3.83 *
時間外でも学習指導を熱心に行っている	2.64 (.93)	3.17 (.75)	3.07 (.80)	2.78 (.84)	1.68
学習支援ボランティアを積極的に活用している	2.98 (.94)	3.44 (.53)	3.40 (.51)	3.05 (.67)	1.92
読書指導を熱心に行っている	2.46 (.99)	3.00 (.71)	3.07 (.59)	2.82 (.61)	4.38 **
地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている	2.21 (.80)	2.25 (.96)	2.29 (.61)	2.57 (.60)	3.65 *
(進路指導)					
生徒が定期的に進路について考える機会を設けている	2.79 (.91)	3.20 (.45)	3.21 (.89)	2.81 (.74)	1.40
生徒の高校合格率を高めるような指導をしている	2.77 (.95)	3.38 (.52)	3.07 (.62)	2.77 (.75)	1.78
生徒が上位の高校に合格することを目標とした指導をしている	2.43 (.82)	3.00 (.71)	2.71 (.83)	2.40 (.73)	1.50
進路相談を熱心に行っている	2.72 (.89)	3.50 (.58)	3.29 (.73)	2.77 (.74)	2.93 *
生徒の適正に合った進路指導をしている	2.79 (.83)	3.00 (.00)	3.21 (.43)	2.66 (.74)	2.25
生徒の卒業後も考えた進路指導をしている	2.59 (.86)	2.67 (.58)	3.07 (.62)	2.61 (.73)	1.58
進路に関する相談を頻繁に行っている	2.28 (.84)	2.67 (.58)	3.00 (.56)	2.43 (.75)	3.73 *
(部活動指導)					
部活動が盛んに行われている	2.84 (.95)	3.50 (.54)	2.73 (.70)	2.41 (.87)	5.95 **
部活動で生徒が活躍している	2.75 (.88)	3.00 (.71)	2.50 (.52)	2.38 (.82)	3.41 *
生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている	2.79 (.86)	3.00 (.00)	2.43 (.85)	2.80 (.63)	1.06
部活動に対して顧問が熱心に指導している	2.58 (.94)	3.40 (.55)	2.53 (.64)	2.35 (.85)	2.73 *
部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている	2.77 (.90)	3.25 (.50)	2.93 (.48)	2.68 (.68)	1.02
部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている	3.01 (.88)	3.17 (.41)	3.29 (.61)	2.62 (.80)	4.71 **
ボランティアを活用して部活動支援を行っている	2.21 (.87)	3.33 (.58)	2.38 (.96)	2.32 (.80)	1.92
(危機管理)					
生徒の安全面に気を配っている	2.90 (.93)	3.17 (.41)	3.40 (.51)	2.94 (.69)	1.81
緊急時の訓練や対策を熱心に行っている	2.63 (.85)	2.25 (.50)	2.43 (.51)	2.56 (.62)	.68
生徒の個人情報の取り扱いに配慮している	3.04 (.94)	3.25 (.50)	3.40 (.63)	3.34 (.50)	2.73 *
警察や地域と連携して危機管理に努めている	2.53 (.83)	3.20 (.45)	3.07 (.59)	2.71 (.66)	3.47 *
壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている	2.62 (.91)	3.00 (.82)	3.27 (.70)	2.81 (.54)	3.51 *
校内の安全管理に努めている	2.77 (.86)	3.00 (.00)	3.29 (.61)	2.94 (.47)	2.56
緊急時の対応についての体制が整っている	2.40 (.86)	3.00 (1.00)	3.00 (.78)	2.77 (.58)	5.13 **
(地域との連携)					
学校は保護者とのつながりを重視している	2.70 (.81)	3.67 (.52)	3.27 (.59)	2.78 (.73)	5.08 **
学校の情報を地域に積極的に公開している	2.91 (.95)	3.17 (1.17)	3.07 (.59)	2.83 (.81)	.52
地域の人材を積極的に活用している	3.00 (.82)	3.57 (.54)	3.40 (.63)	3.26 (.65)	3.27 *
教師が地域行事に積極的に参加している	2.36 (.91)	2.40 (.89)	2.33 (.62)	2.38 (.72)	.02
地域文化の継承を手助けしている	2.40 (.84)	2.00 (.82)	2.29 (.47)	2.57 (.64)	1.48
施設を地域に積極的に開放している	2.57 (.76)	2.83 (.75)	2.64 (.84)	2.64 (.81)	.30
生徒が地域行事に積極的に参加している	2.69 (.87)	2.60 (1.14)	2.71 (.73)	2.66 (.72)	.04

カッコ内は標準偏差

*p<.05,**p<.01,***p<.001

p<.01)、「教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている」(F(3, 200)=3.83, p<.05)「読書指導を熱心に行っている」(F(3, 196)=4.38, p<.01)、「地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている」(F(3, 194)=3.65, p<.05)において4群間に差が認められたので、Tukey法による多重比較を行った。その結果、「生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている」では、教師が生徒とPTAよりも有意に得点が高かった。「特別支援教育を重視している」では、地域ボランティアと教師が生徒とPTAよりも有意に得点が高かった。「教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている」では、地域ボランティアがPTAよりも有意に得点が高かった。「読書指導を熱心に行っている」では、教師とPTAが生徒よりも有意に得点が高かった。「地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている」では、PTAが生徒よりも有意に得点が高かった。

進路指導の「進路相談を熱心に行っている」(F(3, 196)=2.93, p<.05)、「進路に関する相談を頻繁に行っている」(F(3, 195)=3.73, p<.05)において4群間に差が認められたので、Tukey法による多重比較を行った。その結果、「進路相談を熱心に行っている」、「進路に関する相談を頻繁に行っている」では、教師が生徒よりも有意に得点が高かった。

部活動指導の「部活動が盛んに行われている」(F(3, 201)=5.95, p<.01)、「部活動で生徒が活躍している」(F(3, 198)=3.41, p<.05)、「部活動に対して顧問が熱心に指導している」(F(3, 199)=2.73, p<.05)、「部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている」(F(3, 198)=4.71, p<.01)において4群間に差が認められたので、Tukey法による多重比較を行った。その結果、「部活動が盛んに行われている」では、生徒と地域ボランティアがPTAよりも有意に得点が高かった。「部活動で生徒が活躍している」では、生徒がPTA

よりも有意に得点が高かった。「部活動に対して顧問が熱心に指導している」では、地域ボランティアがPTAよりも有意に得点が高かった。「部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている」では、生徒と教師がPTAよりも有意に得点が高かった。

危機管理の「生徒の個人情報の取り扱いに配慮している」(F(3, 198)=2.73, p<.05)、「警察や地域と連携して危機管理に努めている」(F(3, 198)=3.47, p<.05)、「壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている」(F(3, 197)=3.51, p<.05)、「緊急時の対応についての体制が整っている」(F(3, 192)=5.13, p<.01)において4群間に差が認められたので、Tukey法による多重比較を行った。その結果、「生徒の個人情報の取り扱いに配慮している」では、PTAが生徒よりも有意に得点が高かった。「警察や地域と連携して危機管理に努めている」、「壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている」では、教師が生徒よりも有意に得点が高かった。「緊急時の対応についての体制が整っている」では、教師とPTAが生徒よりも有意に得点が高かった。

地域との連携の「学校は保護者とのつながりを重視している」(F(3, 200)=5.08, p<.01)、「地域の人材を積極的に活用している」(F(3, 200)=3.27, p<.05)において4群間に差が認められたので、Tukey法による多重比較を行った。その結果、「学校は保護者とのつながりを重視している」では、地域ボランティアと教師が生徒よりも有意に得点が高く、地域ボランティアがPTAよりも有意に得点が高かった。「地域の人材を積極的に活用している」では、PTAが生徒よりも有意に得点が高かった。

以上の結果から、A中学校では概して、教師が学校の取り組みを認知しており、PTAが学校の取り組みをあまり認知していないことが明らかとな

った。

B 中学校の学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の検討

B 中学校における学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知の違いについて検討するため、学校への期待、学校への評価、学校の取り組みへの認知を従属変数とした一要因の分散分析を行った。

学校への期待についての結果を Table 8 に示す。「学習指導」(F(2, 394)=10.89, p<.001)、「進路指導」(F(2, 395)=18.52, p<.001)、「危機管理」(F(2, 395)=23.81, p<.001)、「地域連携」(F(2, 394)=10.09, p<.001) において 3 群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「学習指導」「進路指導」「危機管理」では、地域ボランティアと PTA が教師よりも有意に得点が高かった。「地域連携」では、地域ボランティアが PTA と教師よりも有意に得点が高かった。この結果から、B 中学校では地域ボランティアが学校に対して期待をしていることが明らかとなった。これは、学校支援地域本部事業が根付いたことで学校への関与度が高まったことが一因となっていると考えられる。

学校への評価についての結果を Table 9 に示す。

「学校には良い教師が多い」(F(2, 380)=3.50, p<.05)、「学校には良い生徒が多い」(F(2, 381)=3.09, p<.05)「学校の取り組みに満足している」(F(2, 381)=6.99, p<.01) において 3 群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「学校には良い教師が多い」「学校には良い生徒が多い」では、ボランティアが PTA よりも有意に得点が高かった。「学校の取り組みに満足している」では、地域ボランティアと PTA が教師よりも有意に得点が高かった。この結果から、B 中学校では A 中学校と異なり、教師が楽観的な評価をしていないことが明らかとなった。

学校の取り組みへの認知についての結果を Table 10 に示す。生徒指導の「生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している」(F(3, 739)=4.88, p<.01)、「生徒の起こす問題に対してすばやく対応している」(F(3, 738)=4.02, p<.01)、「人権教育を熱心に行っている」(F(3, 739)=5.39, p<.01)、「教師はどの生徒にも公平に対応している」(F(3, 728)=11.17, p<.001)、「スクールカウンセラーを積極的に活用している」(F(3, 711)=28.94, p<.001) において 4 群間に差が認められたので、

Table 8 B 中学校における地域ボランティア、教師、PTA の学校への期待の平均値と分散分析結果

	地域ボランティア	教師	PTA	F値
生徒指導への期待	3.72 (.45)	3.48 (.73)	3.68 (.50)	2.02
学習指導への期待	3.79 (.41)	3.39 (.72)	3.82 (.40)	10.89 ***
進路指導への期待	3.68 (.47)	3.22 (.67)	3.79 (.42)	18.52 ***
部活動への期待	3.69 (.47)	3.61 (.58)	3.58 (.57)	.99
危機管理への期待	3.76 (.43)	2.96 (.71)	3.66 (.49)	23.81 ***
地域との連携への期待	3.71 (.46)	3.26 (.62)	3.38 (.56)	10.09 ***
カッコ内は標準偏差				***p<.001

Table 9 B 中学校における地域ボランティア、教師、PTA の学校への評価の平均値と分散分析結果

	地域ボランティア	教師	PTA	F値
学校が地域の中心になっている	2.40 (.72)	2.67 (.76)	2.53 (.68)	1.29
学校は行きやすい場所である	2.56 (.86)	2.54 (.72)	2.53 (.74)	.04
学校には良い教師が多い	3.06 (.60)	2.96 (.69)	2.79 (.70)	3.50 *
学校には良い生徒が多い	2.94 (.56)	2.83 (.70)	2.70 (.65)	3.09 *
学校の取り組みに満足している	2.84 (.55)	2.17 (.72)	2.64 (.72)	6.99 **
カッコ内は標準偏差				*p<.05,**p<.01

Table 10 B中学校における生徒、地域ボランティア、教師、PTAの学校の取り組みへの認知の平均値と分散分析結果

項目	得点				F値
	生徒	地域 ボランティア	教師	PTA	
(生徒指導)					
生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している	2.66 (.81)	2.93 (.66)	3.04 (.64)	2.83 (.68)	4.88 **
教職員の中で共通理解をもって生徒指導を行っている	2.73 (.76)	3.00 (.66)	2.83 (.78)	2.72 (.68)	2.07
生徒の起こす問題に対して見て見ぬふりをしない指導を行っている	2.77 (.93)	2.89 (.78)	3.09 (.60)	2.77 (.75)	1.27
生徒の起こす問題に対してすばやく対応している	3.01 (.80)	3.05 (.60)	3.26 (.81)	2.85 (.69)	4.02 **
人権教育を熱心に行っている	3.11 (.81)	2.93 (.69)	2.78 (.60)	2.91 (.62)	5.39 **
教師はどの生徒にも公平に対応している	2.45 (.98)	3.02 (.72)	3.32 (.57)	2.60 (.80)	11.17 ***
スクールカウンセラーを積極的に活用している	2.31 (.88)	2.92 (.64)	3.59 (.50)	2.72 (.78)	28.94 ***
(学習指導)					
生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている	2.51 (.76)	2.88 (.63)	3.00 (.62)	2.64 (.58)	7.52 ***
特別支援教育を重視している	2.80 (.79)	2.93 (.68)	3.48 (.59)	2.71 (.67)	8.72 ***
教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている	2.93 (.74)	3.02 (.55)	3.26 (.45)	2.71 (.65)	9.94 ***
時間外でも学習指導を熱心に行っている	2.80 (.88)	3.03 (.71)	3.13 (.69)	2.61 (.78)	6.73 ***
学習支援ボランティアを積極的に活用している	3.11 (.79)	3.22 (.67)	3.48 (.59)	2.95 (.73)	6.05 ***
読書指導を熱心に行っている	2.83 (.92)	3.18 (.62)	3.09 (.61)	2.96 (.69)	3.57 *
地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている	2.56 (.84)	2.86 (.72)	2.67 (.48)	2.68 (.65)	2.77 *
(進路指導)					
生徒が定期的に進路について考える機会を設けている	2.92 (.84)	3.05 (.66)	3.00 (.60)	2.88 (.64)	.84
生徒の高校合格率を高めるような指導をしている	2.80 (.82)	3.02 (.60)	3.00 (.67)	2.70 (.59)	3.65 *
生徒が上位の高校に合格することを目標とした指導をしている	2.50 (.77)	2.81 (.71)	2.39 (.58)	2.41 (.64)	4.28 **
進路相談を熱心に行っている	2.75 (.82)	3.03 (.68)	3.09 (.42)	2.69 (.67)	4.01 **
生徒の適正に合った進路指導をしている	2.83 (.78)	2.95 (.39)	3.14 (.35)	2.80 (.60)	2.05
生徒の卒業後も考えた進路指導をしている	2.66 (.80)	2.79 (.70)	3.00 (.62)	2.63 (.66)	2.14
進路に関する相談を頻繁に行っている	2.45 (.82)	2.74 (.50)	2.77 (.69)	2.51 (.70)	2.84 *
(部活動指導)					
部活動が盛んに行われている	3.27 (.78)	3.33 (.77)	3.48 (.67)	3.19 (.70)	1.67
部活動で生徒が活躍している	3.29 (.74)	3.31 (.63)	3.43 (.51)	3.13 (.64)	4.07 **
生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている	3.06 (.80)	2.98 (.57)	2.74 (.62)	2.93 (.58)	3.10 *
部活動に対して顧問が熱心に指導している	3.10 (.85)	3.02 (.69)	3.26 (.69)	2.96 (.81)	2.25
部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている	2.90 (.79)	2.81 (.51)	3.27 (.46)	2.85 (.65)	2.66 *
部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている	3.14 (.84)	2.88 (.68)	3.32 (.57)	2.75 (.77)	15.32 ***
ボランティアを活用して部活動支援を行っている	2.48 (.92)	3.13 (.69)	2.24 (.83)	2.50 (.74)	9.32 ***
(危機管理)					
生徒の安全面に気を配っている	3.08 (.71)	3.41 (.54)	3.39 (.50)	3.10 (.62)	4.78 **
緊急時の訓練や対策を熱心に行っている	3.04 (.78)	2.90 (.63)	3.04 (.64)	2.87 (.63)	3.76 *
生徒の個人情報の取り扱いに配慮している	3.10 (.75)	3.20 (.59)	3.52 (.59)	3.16 (.57)	3.26 *
警察や地域と連携して危機管理に努めている	2.94 (.76)	3.04 (.64)	3.17 (.58)	2.92 (.63)	1.29
壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている	2.99 (.80)	3.00 (.55)	3.59 (.59)	2.86 (.61)	8.17 ***
校内の安全管理に努めている	3.04 (.74)	3.25 (.49)	3.41 (.50)	3.02 (.57)	3.91 **
緊急時の対応についての体制が整っている	2.86 (.76)	2.90 (.59)	3.00 (.62)	2.82 (.59)	.60
(地域との連携)					
学校は保護者とのつながりを重視している	2.64 (.76)	3.00 (.48)	3.39 (.50)	2.81 (.69)	11.78 ***
学校の情報を地域に積極的に公開している	2.87 (.82)	2.70 (.73)	3.26 (.62)	2.80 (.74)	3.32 *
地域の人材を積極的に活用している	3.02 (.75)	3.13 (.81)	3.22 (.67)	3.02 (.68)	.86
教師が地域行事に積極的に参加している	2.56 (.84)	2.53 (.77)	2.74 (.69)	2.46 (.69)	1.62
地域文化の継承を手助けしている	2.72 (.76)	3.00 (.69)	2.81 (.60)	2.74 (.65)	2.03
施設を地域に積極的に開放している	2.64 (.79)	2.71 (.71)	3.00 (.44)	2.81 (.64)	4.26 **
生徒が地域行事に積極的に参加している	2.79 (.74)	2.89 (.72)	3.05 (.38)	2.73 (.74)	1.76

カッコ内は標準偏差

*p<.05,**p<.01,***p<.001

Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「生徒の起こす問題に対して毅然とした態度で対応している」では、PTA が生徒よりも有意に得点が高かった。「生徒の起こす問題に対してすばやく対応している」、「人権教育を熱心に行っている」では、生徒が PTA よりも有意に得点が高かった。「教師はどの生徒にも公平に対応している」では、地域ボランティアと教師が生徒と PTA よりも有意に得点が高かった。「スクールカウンセラーを積極的に活用している」では、教師が地域ボランティアと PTA よりも有意に得点が高く、地域ボランティアと教師と PTA が生徒よりも有意に得点が高かった。

学習指導の「生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている」(F(3, 742)=7.52, p<.001)、「特別支援教育を重視している」(F(3, 731)=8.72, p<.001)、「教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている」(F(3, 744)=9.94, p<.001)、「時間外でも学習指導を熱心に行っている」(F(3, 732)=6.73, p<.001)、「学習支援ボランティアを積極的に活用している」(F(3, 744)=6.05, p<.001)、「読書指導を熱心に行っている」(F(3, 727)=3.57, p<.05)、「地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている」(F(3, 716)=2.77, p<.05)において4群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「生徒の興味・関心を高める魅力ある授業を行っている」では、地域ボランティアと教師が生徒よりも有意に得点が高かった。「特別支援教育を重視している」では、教師が生徒、地域ボランティア、PTA よりも有意に得点が高かった。「教師は生徒の基礎学力向上を目指した指導を行っている」、「時間外でも学習指導を熱心に行っている」では、生徒と地域ボランティアと教師が PTA よりも有意に得点が高かった。「学習支援ボランティアを積極的に活用している」では、生徒と教師が PTA よりも有意に得点が高かった。

「読書指導を熱心に行っている」、「地域の伝統や文化に関する教育を積極的に行っている」では、地域ボランティアが生徒よりも有意に得点が高かった。

進路指導の「生徒の高校合格率を高めるような指導をしている」(F(3, 742)=3.65, p<.05)、「生徒が上位の高校に合格することを目標とした指導をしている」(F(3, 738)=4.28, p<.01)、「進路相談を熱心に行っている」(F(3, 736)=4.01, p<.01)、「進路に関する相談を頻繁に行っている」(F(3, 716)=2.84, p<.05)において4群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「生徒の高校合格率を高めるような指導をしている」、「進路相談を熱心に行っている」では、地域ボランティアが PTA よりも有意に得点が高かった。「生徒が上位の高校に合格することを目標とした指導をしている」では、地域ボランティアが生徒と PTA よりも有意に得点が高かった。「進路に関する相談を頻繁に行っている」では、地域ボランティアが生徒よりも有意に得点が高かった。

部活動指導の「部活動で生徒が活躍している」(F(3, 745)=4.07, p<.01)、「生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている」(F(3, 742)=3.10, p<.05)、「部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている」(F(3, 723)=2.66, p<.05)、「部活動ではあいさつやマナーなど技術以外の生活面での指導をしている」(F(3, 722)=15.32, p<.001)、「ボランティアを活用して部活動支援を行っている」(F(3, 713)=9.32, p<.001)において4群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「部活動で生徒が活躍している」、「生徒は部活動で使用する施設や道具を大切にしている」では、生徒が PTA よりも有意に得点が高かった。「部活動に対して保護者の十分な協力や理解が得られている」では、教師が PTA よりも有意に得点が高かった。「部活動ではあいさつやマナー

など技術以外の生活面での指導をしている」では、生徒と教師が PTA よりも有意に得点が高かった。「ボランティアを活用して部活動支援を行っている」では、地域ボランティアが生徒と教師と PTA よりも有意に得点が高かった。

危機管理の「生徒の安全面に気を配っている」(F(3, 746)=4.78, p<.01)、「緊急時の訓練や対策を熱心に行っている」(F(3, 739)=3.76, p<.05)、「生徒の個人情報の取り扱いに配慮している」(F(3, 747)=3.26, p<.05)、「壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている」(F(3, 722)=8.17, p<.001)、「校内の安全管理に努めている」(F(3, 725)=3.91, p<.01)、において4群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「生徒の安全面に気を配っている」では、地域ボランティアが生徒と PTA よりも有意に得点が高かった。「緊急時の訓練や対策を熱心に行っている」では、生徒が PTA よりも有意に得点が高かった。「生徒の個人情報の取り扱いに配慮している」では、教師が生徒よりも有意に得点が高かった。「壊れたところはすぐに修理するなど環境の整備に気を配っている」では、教師が生徒と地域ボランティアと PTA よりも有意に得点が高かった。「校内の安全管理に努めている」では、教師が生徒と PTA よりも有意に得点が高かった。

地域との連携の「学校は保護者とのつながりを重視している」(F(3, 745)=11.78, p<.001)、「学校の情報を地域に積極的に公開している」(F(3, 745)=3.32, p<.05)、「施設を地域に積極的に開放している」(F(3, 720)=4.26, p<.01)において4群間に差が認められたので、Tukey 法による多重比較を行った。その結果、「学校は保護者とのつながりを重視している」では、教師が生徒と PTA よりも有意に得点が高く、地域ボランティアと PTA が生徒よりも有意に得点が高かった。「学校の情報を地域に積極的に公開している」では、教師が地域ボラ

ンティアと PTA よりも有意に得点が高かった。

「施設を地域に積極的に開放している」では、PTA が生徒よりも有意に得点が高かった。

以上の結果から、B 中学校では概して、地域ボランティアと教師が学校の取り組みを認知しており、PTA が学校の取り組みをあまり認知していないことが明らかとなった。特に、地域ボランティアが学校の取り組みを認知していることが B 中学校の特徴といえるだろう。

まとめと今後の課題

本研究では、地域に開かれた学校づくりの事業として学校支援地域本部事業を取り上げ、学校支援地域本部事業による地域住民の学校への関与が学校の荒れの収束に及ぼす影響について検討してきた。その結果、現在荒れている学校と荒れが収束した学校では、地域ボランティアの意識に違いがみられ、地域住民の関与が影響している可能性が示唆された。つまり、荒れの収束には、地域住民が積極的に学校に関与することで、学校の取り組みが見えるようになり、つまり、学校の取り組みや関係が可視化され、開かれた学校へと学校が変化することが関連していると考えられた。

今後の課題としては、事業を効果的に進めていくためには、生徒、地域ボランティア、教師、PTA の間の温度差を解消していくことや一部の住民だけでなく地域全体を巻き込んだ活動にしていくことが必要になるといえる。また、学校を中心とした変化が地域ボランティアだけでなく、どのように地域全体に広がっていくのかについても検討する必要があるだろう。さらに、時岡(2011)が指摘しているように、地域の教育力を発揮するためには、それを束ね、調整するコーディネーターの役割が大きいことから、コーディネーターに関する検討も必要になってくるだろう。さらに、どのような学校支援ボランティアが可能なのか、ボランティアの創意工夫が活かせる事業としていくこ

とが求められていくだろう（佐藤, 2005）。

本研究では、荒れた学校を対象に学校支援地域本部事業による地域住民の学校への関与が及ぼす影響について検証してきたが、学校支援地域本部事業を行えば学校の荒れが解決すると結論付けることは、あまりにも早急であるといえる。ただし、地域住民というこれまで学校とは無関係だった人たちが学校に関わることで、学校や学校を取り巻く人たちの意識が変わることは推測できる。学校が疲弊していることから、地域に教育のリソースを求める動きは今後も加速していくことが予想され、今後、さらに荒れている学校での地域住民の学校への関与が及ぼす影響を検証していく必要があるといえる。

文献

- 深谷昌志・三枝恵子 2000 授業の荒れ（生徒調査） モノグラフ・中学生の世界 vol.65 ベネッセ教育研究所
- 加藤弘通・大久保智生 2002 問題行動の継続過程と生徒文化の関係：〈荒れている学校〉と〈落ち着いている学校〉がもつ生徒文化の比較から 安田生命社会事業団研究助成論文集, 37, 73-79.
- 加藤弘通・大久保智生 2004 反学校的な生徒文化の形成に及ぼす教師の影響：学校の荒れと生徒指導の関係についての実証研究 季刊社会安全, 52, 44-57.
- 加藤弘通・大久保智生 2005 学校の荒れと生徒文化の関係についての研究：〈落ち着いている学校〉と〈荒れている学校〉では生徒文化にどのような違いがあるか 犯罪心理学研究, 43, 1-16.
- 加藤弘通・大久保智生 2006 問題行動をする生徒および学校生活に対する生徒の評価と学級の荒れとの関係：困難学級と通常学級の比較から 教育心理学研究, 54, 34-44.
- 加藤弘通・大久保智生 2009 学校の荒れの収束過程と生徒指導の変化：二者関係から三者関係に基づく指導へ 教育心理学研究, 57, 466-477.
- 本迫庸平 2009 学校支援地域本部の教育活動に関する一考察 東京大学大学院教育学研究科紀要, 49, 105-114.
- 中川忠宣・山崎清男・深尾誠 2010 「学校支援」についての保護者と住民の意識の相違に関する一考察 大分大学高等教育開発センター紀要, 2, 49-67.
- 荻野亮吾 2010 学校—地域間関係の再編の動態についての「社会関係資本」の観点からの考察：大分県佐伯市の学校支援地域本部事業を事例として 生涯学習基盤経営研究, 34, 41-56.
- 大久保智生 2009 学級集団づくり 心理科学研究会（編）小学生の生活とこころの発達 福村出版 Pp.60-72.
- 大久保智生・時岡晴美・平田俊治・福圓良子 2011 学校支援地域本部事業の取り組み成果にみる学校・地域間関係の再編（その2）：生徒・地域ボランティア・教師の意識調査から 香川大学教育実践総合研究, 22, 139-148.
- 時岡晴美・大久保智生・平田俊治・福圓良子・江村早紀 2011 学校支援地域本部事業の取り組み成果にみる学校・地域間関係の再編（その1）：地域教育力に注目して 香川大学教育実践総合研究, 22, 129-138.
- 時岡晴美 2011 「地域の教育力」は衰退したのか 大久保智生・牧郁子（編）実践をふりかえるための教育心理学：教育心理にまつわる言説を疑う ナカニシヤ出版 Pp.201-216.
- 佐藤晴雄（編）2005 学校支援ボランティア：特色づくりの秘けつと課題 教育出版
- 青少年人間関係調査研究会 2002 青少年の人間関係に関する調査報告書（代表 矢島正見）平成13年度（財）社会安全研究財団助成調査研究報告書